제680호 1911. 5. 19.

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
定價　本紙一枚金二錢▲一ヶ月前金三十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵稅一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一圓金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久太郎
印刷人　松久時一郎
發行所　京城西小門通　京城新報社　電話　大六三番
仁川宮町三丁目　仁川支局　電話二一一番

雜錄

櫻の牛耳洞（上）　魚骨生

（本篇は本紙發行停止前の寄稿也）

日報子に依りて紹介せられたる牛耳洞は京城の北東北漢山下の一桃源郷加五里と云ふ方が朝鮮人には通りがよい、チンコー街を去る事東大門よりすれば三里二十町東小門よりすれば一里三十町元山街道を大水踰峴に向て行く別段迷ふ樣な路はない。

大水踰峴の入口に巡査の交番がある此交番から半町斗り行くと左側にスリチビがあるソコカラ左へ卽ち北漢山麓を目當てに進めばよろしい（最も車馬は其先から行くべしだ）道路は廣くて砂利抔は敷いてない平坦砥の如しと迄はいかんが馬車でも人車でも自轉車自働車何んでも御通れの處で僕等の一行多くは徒步草鞋掛飯に瓢簞であつたが李王職の先生達は流石豪なもので二頭立の馬車四五頭に分乘料理人らしき者も居た龍山のサーベル五六騎馬蹄塵を揚げチゲクン二人にビールやら肴やら背負はして來たのもある總督府八局の三十人組は下駄がけの先生方も餘程見へた婦人達も一組やつて來たこんな風だから其道路のよさ加減がわかるのであらう。

途中の景色も俗を離れて中々趣がある櫻は數處に三十本此處に二十本と云ふ風で總計千四五百本はあるだらう種類は中々多い黃金櫻抔も餘程ある（是は今盛りじや）凡てが單瓣で吉野櫻に似たのもあるが先山櫻の種類であらう併し櫻の學問も研究もないから是は專門の人に讓る、樹は十年や二十年のものでない少なくも七八十年の古木と見る幽邃閑佳な風光に到ては隅田や上野、小金井東山や嵐山抔のそれの如く俗化せられた處とは雲泥の差なものである希くは馬車の樣な俗臭のものは交番より內へ入れたくない事である獵銃やサーベルは勿論の話だ。

花は此日三分の觀で僕等は實にありがた涙であつた昨日今日の雨で二十七八日頃は咲も終らず散も始めず三十日の日曜は散るのを観るに適して居るであらう。

紹介の序に云つて置きたいのは、ドーモ日本人は公德心に薄いのか何か知らんがあたら櫻花をドシ／＼枝を折り取て歸るそれをさしたる惡い事と思ふて居らん事である佳俗の事抔は別問題として朝鮮ではとても求め得られぬ珍木と既ども思はんに折るに到りては實に愛惜の盜　當局で何んとか櫻樹保護の爲めに私有物でも何んでも折り取る事を嚴禁して貰いたいイヤお上の御手數を掛ける迄もない各人個人に公德心を維持してほしいものであると云ふても中々個我がないと例の蠻的行爲をやるだろうから是非一つ武斷的に制裁を附して貰いたいイヤそれよりも當局で買上げて一大公園にしてほしいものだ。

苦笑　蓬頭垢面樓主人

僕明日來の閑暇を利用して盛んに土ほぢりを行つて居る一日の午後「精が出るね」と聲を掛けて入つて來たのは友人の愚公「ウン」と點頭た僕が種子を下して終うまで愚公は沈と見成つて居たが軈て手を拭き乍ら椽側に腰を掛けるのを待ち兼ねた如に「見る所大變に種子を下した如だが全体平均何割位確實に成育するもんだい」「サア判らんよ、夫れは」僕が運ぶ澁茶を啜りながら斯う答へる「判らんて」と云つた愚公は首を傾けて「フム」と鳴らした鼻を一寸ツマむ、此れは渠れの癖である、薦められた茶を啜りつゝ渠は盛んに鼻を「フム」と鳴らしてはツマんで居たが「ヂヤア詰らんナア」と嘆聲する「何割位確實に生育するか判らんものに手を掛けるのは」袂から不二を取り出して薄紫の煙を含む、と見る間に鼻をツマむツマまれて一時逃げ場を失つた煙が其の手の放れたと同時に直線をなしてスーッと逃つたのがサラ／＼と若葉を搖がして吹き來る風に揉まれて奔龍の勢もて空の彼方に消ゆる、如何にも夫れが面白いので微笑む僕の顏を覗き込んだ愚公は「エ、オイ、君、詰らんぢやないか」と駄目を押す「何が」「何がつて君」と一寸鼻をツマむで「下した種子の何割位が確實に生育するとも判らんさうで見ればサ」「だらうかしら夫れはマア夫れとして蠶絲の癈後は何うだい四五日無沙汰してるが」「ウム、難有う母子ともに健全だ」「良い子持ちだナ」「ハヽヽ、五人と來ちやア堪らんよ」「大分發芽した如だが何割位確實に成育する見込みだい」「判らんなア」と云つた愚公は鼻をツマんで苦笑した。

俳句

●漢陽吟社第十六集
花儒園選（四）

蛤の吸物出すや峠茶屋　西都
隣まで燒蛤の案內かな　朝松
足音に蛤口をしめにけり　悟竹
蛤の身の縒りけり桶の底　同人
春の水香のある塵も流れ飛　同人
潮にふえけり春の水五寸　朝松
蛤や海士の土產の藁つゝみ　如眠
蛤に名を高めけり伊勢の浦　思遠
椿拍子に舟足輕し春の水　朝松
かる／＼と夜流さむ春の水　思遠

三光
人　野遊の裾ぬらしけり春の水　西都
地　蛤の夢ぞこそ見よ蜃氣樓　思遠
天　さら／＼と草に音有春の水　悟竹

追加
淺澤や草の上まで春の水　翠蠻
蛤や形も味も春のもの　同

召使お初　第五十四回　黑法師

「態々お越し、そりやお氣の毒でござつた喃」と佐十郎は後より物に逐ひ掛けらるゝ如く、そは／＼して「今日は些と急ぐ用もござるで、此のまゝ失禮致すがの、何れ又改めて御意を得る、お宅は日が窪毛利甲斐守樣お屋敷內ぢやの。」

「お手間は取らせませぬ、私あなたにお願ひの筋ござりまする」とお察は思ひ込んで云ひ「恐れながらちよと待ち下さりませ」

「私へかの、改つて何事ぢやの」

「立ちはだかつて、斯樣な事申し上げるは、失禮もござりまするが、私仔細あつて親の家を離れたでござります」

「はて、女儀の身で、何故でござる喃」

「御存じもあらせませう、親はお屋敷小人頭を勤め居りまするで、申すも、異の少々、一家の生活にも足り兼ねまするで、親共は夜ごと內職、蠟燭の芯に致す觀世捻を縒り居るのでござります、けれど是とても知れた收入、私共同胞日ごと厭人致しまするだけ、親共の身の爲は痩せて參るでござります」

「小身者の生涯ほど、憐れに果敢ないものはござらぬ、御身上御推察申し上げる」

「私、兄もござります、私、弟もござります、なれど父の心を繼いで、家の名を興さうと心掛けるものはござりませぬ、私お願ひと申すは此處、恐れながら私を眞實妹と思召して、お心添へ下さる事叶はぬでござりませうか、あなた樣お手並は先日拜見、お心築の深くあらせられる事も兼てより承はりありまする、あなた樣お手に屬いて、女の一分立てる日もござりますれば、あなた樣を神と崇めて、末代御恩を忘れぬでござります」

お察は佐十郎の善悪のみを見て、佐十郎を世に賴みある武士と思ふなり、彼はいかにもして松田の家名を興して父の素志を貫きたく、十年の胸眼を乞ひて、文身の道を求め歩くなり、佐十郎はお察のこの詞を聞いて、冷汗の背を浸すを覺えざりき、お察が斯ほどまで尊敬し異れる我身の行爲は穢れたり、お察の目には雪とも見ゆらんも、實は炭の如き身なり、一身を寄する處もなく、町人の手に捉へられて、盜賊の穢名をも得つる身が、お察の機柄となりて什麽をかさるべき、遂には雪の炭ならるを見抜かるゝに止まらん命色せる屏風の裡は反古なるを見透かされて止まん、されど我も何日まで今の身にてはあらじ、行く／＼は眞の人となりて、異の價を現はす時あるべきに、改めてこの時對面するとも遅くはあるまじ、今は体よく斷りて、人よりはまづ我身立身の道を考へんと思ひたれば、佐十郎は止むを得難きやうに額を撫で。

「切角ぢやが、これはかりは困るかの、假し激勵にても、松田殿は毛利家御家來、されど拙者は氷の浪人、一身の方向もまだ定まらで、斯樣に流浪致し居る、其處へあなた樣など、思ふても見據き處、一時の危急をお救ひ申すとは替りて、一代御出世の御相談に預るは難しい、これは平に御免を蒙る、」

「それでは斯ほどに申し上げるを、お聞き入れはござりませぬ喃」

「聞きたうても聞かれぬ、此身不甲斐なさを恥ぢるでござるよ」と佐十郎は云ひ切り「剛緣あらば又お目に掛る、さらばでござる」云ひ捨てゝ去らんとす、お察は慌てゝうしろの袖に縋り付きて。

「まづ御待たせ、外に申し上げる事でござります」

●本日六ページ

廣告

東京電報（十七日）

▲皇后陛下御發程 皇后陛下には伊勢大廟御參拜のため本日午前八時三十分東京御發程遊ばされたり

▲東宮妃御快癒 日を追ふて御快癒に赴かせられたる東宮妃殿下は來月初め御床離れ仰出さるならんと

▲遣英艦隊の通過 遣英艦隊は無事海峽を通過せりとの公報ありたり

▲東拓觀光團大阪着 東拓會社主催の內地觀光團は大阪に到着せり

▲大潛航艇建造 米國は今回愈々四隻の新潛航艇を建造する事に決したり右潛航艇の排水量は五百屯にして落成せば世界海軍潛航艇の最大なるものなるべしと云ふ

▲海軍參謀長會議 橫須賀、吳、佐世保、舞鶴、各鎭守府參謀長第一第二艦隊參謀長大湊、竹敷、馬公、要港部參謀長會議は十七日午前十時より海軍省に於て開會齋藤海相の訓示財部次官坂本教育本部長栃內軍務局長列席の上會議を開き午後三時散會したるが同會議は向ふ五日間の豫定なり

▲清國の飛行機研究 清國陸軍大臣陰昌氏は軍用飛行機研究の必要を感じ今回駐英公使に飛行機の購買方を命じ更に禁衛軍將校二名を英國に派遣し飛行機の操縱を研究せしむ

▲濟生會の事業 近々設立せらるゝ濟生會にては醫藥の資料なき貧窮者を救助するは勿論なるも肺病患者に就ては各地の施療院救療の設備なく從來の肺患者は其の恩惠に浴する能はざる悲慘の狀況尤も甚しきより此點に對しては充分力を注ぎ全國中肺病の施療院も設置する計劃なり

▲飛行場所撰定 軍用氣球研究會にては遠距離の自由飛行を爲すに足る場所を要するにより位置選定中

▲佛公使謁見 本邦駐劄佛國特命全權大使ゼラル氏は賜暇歸國するに就き御暇乞として十七日午前參內皇后陛下に謁見仰付られたり

▲濟生會ご醵金 恩賜財團濟生會東京寺部世話人會は來る二十二日午後首相官邸に開かるゝ由なるが右會議に於て各醵金額の決定を見べし

▲廣軌案形勢非なり 廣軌鐵道調查會に於ける委員の質問續發して政府當局者答辯に窮し廣軌案の形勢頗に非なりと

▲文藝教育兩委員發表 文藝院通俗教育會兩委員會に關する官制並に委員發表されたるが文藝院委員十八名通俗教育會委員は二十八名にて岡田文部次官は兩者の委員長を命ぜられたり

▲阿片會議延期 上海に於ける阿片會議は無期延期となれり

▲北海道山火事不熄 北海道の山火事は九日間に亙りて尙熄まず損害の擴大なるは勿論人心爲めに恟々たり

▲小樽火災の損害高 北海道小樽の大火損害は約十二萬圓なりと

雜報

鮮人教育問題
關屋學務局長談
學制は調査中

朝鮮人教育問題及其現狀に就き關屋學務局長の談片左の如し 朝鮮人教育に關する根本方針の確立は頗る重要問題にして漫りに其解決を急ぐ能はず殊に教育問題は一般民心に甚大の影響を及ぼすを以て言論の如き大に之を愼まざるべからざるなり然れども唯だ現存の教育機關は多種多樣に別かれ又之に對する法令の如きも舊韓國當時のものを依然踏襲し併合後の狀勢に適應せざるもの自然尠からざるを以て之が整理は最も急務中の急務なりと認め居れり元來當局者たる予の名譽より言へば一日も速かに正すべきは之を正し行ふべきは之を行ふべく熟慮せざるにあらざるも然りとて之を急ぐの必要那邊にか在らん故に現存にては只だ調査中也と答ふるの外なきのみ若し夫れ新領土に於ける教育事業の困難なるは予の豫說を待つまでもなく幾多の事實之を證明せり則ち一步其方針を誤る時は遂に亡國の憂患を貽すに到るべし之に關し倫敦タイムス外交部長チロル氏の著せる印度教育の弊と題する一小冊子あり苟くも半島の教育に注意するものは取つて以て參考に資すべきなり

▲併合後の私校 現に併合後に於ける一般學校の狀況は極めて穩健に經過しつゝあるは尙ほ喜ぶべき現象なりと謂つべし而して最も注意を要したりし私立學校に見んか經費支持難の爲めに廢校せるもの陸續其數を知らずと雖も一方存續中のものは孰れも能く新政の精神を體し毫も憂ゆべき徵證を見ざるに到れり斯かる狀況は寧ろ意外の感あると共に豈に又其時季を卜するに足る好現象ならずとせんや更に外國人經營の諸學校の如きに見るも何等忌むべき傾向を認めざるのみならず昔ては日語を課せざりしものが現今にては浴々相率ゐて之を教ゆるに到り其他朝鮮人の私設學校亦同樣の狀態を示めせり思ふに日語の教習をして必要の科目たるに到らしめたるは入學生徒の要求夫れ是を促したる所以にして換言すれば總督府上日語の習得なき時は非常の不利不便あるを以てなり此風潮は大に之を歡迎し大に之を利用せざるべからざるを確信す云々

●新設部面狀況

京城府補助機關として五部八面を新設し各其部面長は數日前夫れ〳〵任命せられたるが之に對する一般の意向及施政の狀況を聞くに部面事務員として配置すべき內地人は補佐の責任重大なるを以て之が人撰の如き一層の注意を以て詮衡し現に京城府吏員中技術優秀にして必要の高潔なる者のみを任命し又朝鮮人に於ても同樣の詮衡を遂げ其事務所は城內五部は當分事務の統一と經費節約の都合とに省み舊の府民會建物を以て聯合事務所に充て斯くて各部面とも九日より十二日に涉り事務を開始し先づ徵收簿及納入告知書の調製に着手し又一方に在ては各部面長及事務員相數まり執務の實地練習を爲しつゝあるが所屬部面民の意向は一般に好感を以て之を迎へ居れりと尙ほ城外面に於ては其下に洞長を採任し各般の打合を遂げたるが其多くは嘗て統監として衆望を荷へる人々なる爲め管內人民の信用厚く毫も不滿の狀況を見ざる由

●部面經費規程

京城府にては新設部面經費の負擔及支出に關する規程を制定し昨三日中に發布の由なるが右經費の種目は戶別割結數割及國庫支出の賦交付金にして此收入によりて部面事務を進捗せしむべしと

●仁川築港設計

前紙公表の旨を報せし仁川築港設計大要左の如し

▲宮木稅關長の談 仁川築港に付ては阪出技師主として設計の任に當り永年に亙り潮流地質等を調査し尙未方面の意見を徵し種々の斟酌を加へ初めて計畫を立たるものにして其大体を摘めば船渠式にして旭屋旅館海岸の中程より南へ二百五十間の線を爲し線の極端より西に三百五十間を劃したる東西の兩全部を埋立ると共に其內南二十五間東二十五間西百間南北七百二十間東西二百六十間の處を船渠となし船渠の西端に六十八尺の閘門を設く閘門は二門式にして渠內の水深は平常二十六尺を保たしむ船渠以外の地域は全部埋築し其內旭屋前より稅關埋立地に至る直線內を市街地として其他は全部稅關の用地となす尙潮流の爲め七百間の防潮堤を築き堤の所々に口を開け小船の出入に便ならしめ又堤に沿ふて干潮面以下十四尺の水道を堀り船渠內には五千噸の汽船三隻を橫付することを得せしめ殘部は繫留とし小舟の橫役に便を計ることとせり而して船渠の東南は仁川港の發展に伴ひ隨時擴張し得べき設計なり尙東海には鐵道を延長し陸上荷物の運搬に便ならしむ

▲阪出技師の談 仁川築港に付て約七萬坪の土地を現出する譯にて內三萬坪余は船渠完成後埋立をなす計畫なり(現仕稅關埋立地前小舟溜場)船渠は幅七百二十尺長さ千五百四十尺水面は現在の地盤を堀鑿し(沙島と公園地海岸との間)常に二十六尺の水深を保たしむる閘門を作り複門式とし矢營形にて外側の扉を開き中に入る時に於て外側を閉ぢ內側の扉を開き入渠せしむるものなり閘門の幅は六十八尺扉と扉の間は四百四十尺閘門中の水深は船渠內よりも多からしむ內港は小月尾島の方面より見る時は非常に淺くして千噸內外の船は出入困難なる故最干潮時にあつても水路は三百尺の幅員にて十四尺の水深を保たしむる爲に四千二百尺の馴導堤を設く之等工事は本年四月より着手し向ふ六ケ年を以て竣工の筈なり工事費の多額を要するは浚渫と埋立とにして之に要する浚渫土砂の量約二十二三萬坪埋立に要する埋土約十八九万坪に達すべく而して浚渫は大仕掛の器械力に賴らざるべからず內港にはポンプ式浚渫船を使用す又船渠の外側は夥多小船の荷物陸揚をなし得らるゝ利便なる設計を立てたり尙本年度の工事としては浚渫船土工器械等の購入其他船渠の調査及埋立地(旭屋前より涉島に向て締切をなす豫定)締切線は約七萬坪最高潮と雖も潮水の侵入せざる事とし以後順次に基礎工事を施し六ケ年にして完成せしむるもの也

●最近京城金融

前月來の好況を持續しつゝ越月したる京城金融界は中旬に入りて米豆の出廻り活潑なりしと各種事業の着手等により一時繁忙の氣配を示したりしが恩賜公債の賣買內地人資金流入等多く季節品入期も一段落を告げ加之農繁期に近づきたるを以て一般經濟界は漸ろ小康の裡にありと云ふべく隨て金利も弱含みの姿となれりと云ふ(京城商議調查)

●高女補助內定

民團立高等女學校に對する補助申請の件は當局者に於ても其必要を認め既に內定せる如くなれば近く交付の指令發せらるべし尤も其金額に就ては未だ決定を見ざる由なるが今交付に對する當局の意向を窺ふに現在の同校は其設備甚だ不充分にして參考品の如き頗る遺憾の點多きを以て該補助金は主として此方面に使用せしむべく隨て補助金の爲めに設定經常費を減額する等の事なき樣條件を付すべしと

●恩賜事業ご認可 嚮きに咸鏡南北の兩道より內務部に認可を稟請し來れる同道恩賜事業費は目下各部に於て調查中なるが二三日中認可すべしと

●棉花採種圃位置 朝鮮に於ける棉花事業は將來多大の發展を見るべく近く棉花會社の成立せんとするも之等の傾向に因するものなるべきか目下棉花採種圃として當局の設備しあるは木浦、珍島、右水營、南平、光州、金州、晉州、大邱、永同、務安、咸平の各地なりと云ふ

●採鑛出願處分方針 朝鮮に於ける鑛山の出願者は總督府設置以來處分の遲れることを譏するもの多きによりて當局者に就て聞くに總督府設置と同時に官制改革其他內部整理のため處分の遲れたるは事實なるも道路傳ふる如き鑛、官營等の計畫は未定にして今後は從來の通り處分するも价川其他二三ケ所は今回鑛床調査をなすにより該地方の鑛區は調査決了するまで處分せざるべしとの事なり

▲人さま〴〵▼(三十四)
關屋貞三郞君

學務局長關屋貞三郞君は三新動の武一人である、嘗つて兒玉臺灣總督の秘書官として滿洲の野に從軍し、夫れから石塚君の下に大連民政署庶務部長を勤め、次で關東都督府官制の發布に方り其庶務課長兼大連民政署長となつたが、偶々滿鐵が設立され傍若無人の其振舞が如何にも癪に障つたとかで、遂に劫を煮やして佐賀縣事務官に轉任した、其時後藤總裁曰く尙だ年が若いから田舍を廻つて充分修行して來いと、兎に角修行が濟むだので今回復々殖民地に任官したのであろう、而して臺灣から滿洲、次いで朝鮮に來た處は一寸石塚君の徑路に似て、又其後を追蒐け歩るくようにも見ゆるも奇だ、君は縱橫の才人であるが三本筋くなるとそうも行くまい。

●鑛業許可件數 昨四十三年四月より本年三月迄の鑛業出願に關し內地人三百十五件內許可百一件朝鮮人三百二十四件內許可百件外國人二十五件內許可七件にして砂鑛出願に關し內地人九十一件內許可五十七件朝鮮人百七十一件內許可百二十六件外國人六件內許可三件なりと云ふ

●軍人遺族の優遇 愛國婦人會朝鮮本部にては今回の總會を機とし廣く朝鮮在住の軍隊憲兵隊員の遺族を取調べ總會に招待優遇するは勿論遠方の地に在ては參會し得ざる向へは特に記念品を寄贈する筈なり

●京畿道授產場

恩賜公債を基礎とせる京畿道授產計劃は疾くに確立し現に經營中なるが本年度に於て收容せる生徒は養蠶部に二百九十六名作蠶部に三十七名を示めし其職員は三十名を任用して從事せしめ居れり而して同場にては各府郡分設の不利なるを思ひ隣接府郡を共同せしめ力を合せて其目的を達すべく期し又授產事業に就きては漫りに多種多樣に涉るを不可なりとし養蠶作蠶果樹養鷄の四種を撰び之に全力を傾注する筈なり豫算は經常部七萬四千四百五十一圓八十二錢二厘臨時部八萬六千百九十一圓三十八錢二厘なりと

●鐵道ホテル計劃

朝鮮鐵道局は半島の縱貫鐵道の完成後は南滿鐵道と歐州旅客の通路たるべきを豫期し之に伴ふ各方面の設備を充實する筈なるが先づ其第一の缺點とも見るべき旅館の設立を計劃し居れり地點は釜山京城平壤等の要地を撰定する筈なりと聞く

●朝鮮內牛乳の概況 目今牛乳の需要は主として內地人のみなれども將來は朝鮮人間にも多少の需要者を生ずべく現に京城にては上流鮮人間の使途少なからざる由なるが今當局者の調查したるものによれば本道に於ける搾乳場は三十五個所にして乳用牛は百五十八頭あり其搾乳高九百七十石價格四万四千四百五十圓なりとの事なり尤も京城府は此計數以外なり

●佛國公使の入京 南米秘露駐劄佛全權公使ジアシギウマン氏夫妻は十八日午後八時十分着入京當地に二日間滯在の上安東縣を經て歸國すべしと

●總督佛公使招待 寺內總督は十八日夜入京の筈なる佛公使夫妻を明十九日正午總督邸に招待し同時に佛國總領事代理山縣政務總監小宮次官小松兒玉の兩局長同夫人を招待し午餐の饗應ある筈なり

●新田技師の海外差遣 鐵道局線路課在勤の技師新田留次郞氏は今回鐵道事務視察の爲め歐米各國へ差遣を命ぜられたり

●渡邊高等法院長 司法官會議に列席の爲め東上中なりし渡邊高等法院長は來る二十日午前八時四十分南大門着の豫定にて歸任の途に就きたり

●前田幸子の歸京 東上中なりし前田幸子は十七日歸京したるが十八日午前十一時寺內總督を總督府に訪問したり

●四月中各驛乘降員 四月中の南大門、西大門、龍山各驛に於ける乘降客數を記せば左の如し

		一等	二等	三等
南大門驛	乘	一九六	一、三三〇	二二、〇四七
	降	二四〇	一、五四六	二五、一六〇
西大門驛	乘	六六	一二〇	一、二七七
	降	五〇	九〇	一、六〇四
龍山驛	乘	一九	三〇〇	七、〇三九
	降	一二	三四四	七、〇二一
合計	乘	二八一	一、七五〇	三〇、三六二
	降	三〇二	一、九八〇	三三、七八五

●仁川衞生組長改撰 仁川の衞生組合正副組長は大部分任期滿了に付改選の結果左の諸氏選任せられ來廿日衞生上に關する打合をなす由
第一區(正)木村淸太郞(副)前田巳一郞 第二區(正)三船重喜(副)藤田千吉 第三區(正)入田利三郞(副)飯川熊八郞 第四區(正)田中良助(副)村谷勘藏 第五區(正)高杉昇(副)櫻田景紀 第六區(正)大咲精七(副)馬場長次郞 第七區(正)加賀田芳太郞(副)安岡德平 第八區(正)綱木仙吉(副)草苅兵太郞 第九區(正)江本芳次郞(副)津江米作 第十區(正)北川鐵次郞(副)吉倉喜三郞 第十一區(正)柴田與嘉郞(副)長谷惟定 第十二區(正)吉川金太郞(副)川本治介 第十三區(正)富谷本馬(副)玉置才一郞 第十四區(正)深見勝三郞(副)野田月吉 第十五區(正)山口龍太郞(副)杉山照藏 第十六區(正)土井伊右衞門(副)土屋善三郞 第十七區(正)佐分葉次郞(副)藤野森二郞 第十八區(正)阪倉伊平(副)木村九八郞 第十九區(正)馬辻淸行(副)石林鐵太郞 第廿區(正)福岡利吉(副)淸水松太郞

●大同江口春季漁 從來大同江口に於ける春季鮟鱇網漁は全く不可能なりとし從業者は何れも遠き安州灣其他に出漁し居たるが鎭南浦沖合に出漁し六月末乃至七月上旬に入りて大同江西口に集り從漁する實例をなし居たる鮟鱇網漁業者二名は多年の實驗上大同江口に於ける春季の漁業は必ずしも廢棄すべきものに非らずと主張し本月初旬同地の者の引止むるも構はず江口に出漁して鮟鱇網を流したるに石首魚其他數種の漁獲物あり水揚高七十餘圓に上りたりと之れ實に大同江口に於ける春季漁場を發見したると云ふ可く從來氷々遠く出漁したりし鮟鱇網從漁者は今後江口にて出漁することゝなる可く今回の實驗に照し極めて好望なる可と

●鯖に防腐劑

長崎縣人渡邊某は目下鯖の大漁場たる慶尙南道巨濟島に於て鯖の防腐注射事業に着手し居る大規模の工事を設立し其他の設備も遺憾なく行き屆き目下一日平均二萬乃至三萬尾の注射を行ひつゝあり其成績は良好なるも之れが需要に就ては未だ充分研究の餘地あるものゝ如しと事業者は着手後三年間は損失を覺悟しをれりと

●鎭南浦築港工事 鎭南浦築港の工事は目下掘鑿のみに從事し五十馬力の捲上機を使用しつゝあるが目下各地方農繁期なるが爲めか人夫の供給充分ならず僅かに二百人乃至三百人の從事するに過ぎず然れども捲上機の運轉は工事進捗上極めて便利にして目下は掘鑿地に百人以上運搬に百人以上を區分し土運車十二臺を同時に連結して捲上部の人夫は直ちに運搬することゝ [illegible] 斷なく捲上げられ堀鑿に運搬に些細の滯りなく工事は益々進捗しつゝあり其他加護島と飛鷹島との間に於ける築港工事及び平壤鑛業所依託貯炭場工事の如きは目下設計中に屬するを以て未だ詳細を知るに由なし る。

▲公人私人▼
▲內田良平 十七日大邱へ
▲中川孝太郞(鎭南浦稅關主事) 同浦
▲尾崎敬義
▲大島壽之進([illegible]) 同金化行
▲佐々熊太郞(東亞煙草會社々長) 同平壤行
▲早川省三(平壤農銀支配人) 同平壤行
▲池邊新一(新聞記者) 同金州行
▲加藤恒忠(代議士) 同西鮮方面へ

▲京、龍兩驛の貨客▼
▲南大門驛乘降客 十七日の分 乘車客 七三三 下車客 八七九 乘車賃金 二、二七〇、九〇
▲南大門驛荷物 發送 六四噸 到着 五二六噸 貨物賃金 六五七、〇〇
▲龍山驛乘降客 十七日の分 乘車客 二二九 下車客 二二〇 乘車賃金 二五〇、二九
▲龍山驛荷物 十七日の分 發送 一噸 到着 一八二噸 貨物賃金 四五三

▲仁川港の出入船舶▼
鐵嶺丸 十九日 大連より入港
[illegible]丸 十九日 大阪へ向出港
[illegible]丸 十九日 大阪へ向出港
城津丸 十九日 長崎へ向出港

▲京城手形交換高▼

五月	金高	枚數
十八日	貳一六四八八、八〇〇	七〇九

▲茶袋▼ 日本官煙と英米トラストとの煙草戰は頗る凄ましい、一步踏み誤れば直ぐに切り込まるゝ實況油斷も隙もあつたものぢやない▲現にトラストの方では朝鮮に於て昨年の如き三十八萬圓も損をして居る、處が支那で百餘萬圓も儲かる爲め平氣で戰爭を繼續して居るのだ▲斯かる勁敵と闘つて居る東亞煙草の苦戰察すべしだが、其れ丈に於て吾々は廉い煙草が喫し得らるゝ譯だ▲嘗て併合の恩澤に浴したる者老者に對し其筋にては固く浪費を戒め宜しく土地でも購ふべく慫慂した▲然るに何と心得てか土地を買ふには不足だから二千圓丈け貸下を得たいと京城府に請願したものがある、呆れて物が言ない洲を越へて寧ろ喚き出したくなる▲先日歐米から歸つた井上雅二君、半島の天地を整然で韓肉に耐へないと見わ乘りと菊地君の跡釜を覗らつて居る。

▲相場電報（十八日）
▲大阪株式（六月限）（前場）（後場）

▲京阪(同)	五七、九〇〇	五七、六〇〇
▲電燈(同)	五七、七〇〇	五七、[illegible]
▲鐘淵(同)	九七、三〇〇	九七、一〇〇
▲[illegible]	八[illegible]	八六、九〇〇
▲大阪(同)	一〇三、九〇〇	一〇三、八〇〇
▲[illegible](同)	一〇三、六〇〇	一〇三、八〇〇

▲大阪期米

▲大阪(同)	一七、七〇〇	一七、六〇〇
▲株式(同)	一七、七〇〇	一七、一〇〇
▲[illegible](同)	一八、八二〇	一八、七〇〇
▲取引(同)	一〇、八〇〇	一八、八〇〇

▲仁川米豆取引

◎京都特信（其二）

於京都 青柳南冥

▲本派本願寺の裏面

大谷派本願寺が曾て財政の困憊を來たし醜態か其最弱の弱點を天下に暴露するの餘儀なきことありたるは吾人の今尚記臆に存せる所なり、此間に立ちて本派本願寺は大に前轍に鑑み出入度を制し力めて財政分度に注意し本末一致提携を主とし異宗万年の長計に汲々として教線の發展に焦慮しつゝありとは獨り吾人の推想に止まらずして滿天下の人士之を信じ之を認めつゝありしに深く親しく本派本願寺の裏面に侵入し之を洞察するに其實は全く正反對に財政の紊亂其極に達し護持、慈善の二財團も辛ふして其説明を發するに過ぎずと聞く加之本末共保財團常用部の如き已に一文の餘贅なく近頃親修せし宗祖六百五十回大法遠忌も種々の名目の下に浄財を募集し漸く虚勢の下之を施行したる由にて其他教學、布教等總て本山の施設安當を缺ぎ專ら其運命風前の燈火に類するものあり

△淫逸浮華に流れし
本派本願寺の僧侶

昔は親鸞聖人眞言、天臺の虚榮的佛教に飽き足らずして眞摯卒直なる念佛の一門を開きたるに非ずや而して佛法の都ての施設に於て輕跳浮薄の事を誡められたるに非ずや、佛教を輸入せし朝鮮に於ては高麗末世の僧侶が輕兆浮華淫逸度を失ひ遂に君主の壓迫を受け庶民の排斥を受くるに至りたると等しく法要の如きは果して虚飾に非るか親鸞本願寺近來の僧侶は高麗末世の朝鮮僧と何の擇ぶ所を現に今回執行せし遠忌祭騷ぎの内容を窺へば吾人は呆然として自失せざるを得ず退いて私かに思ふ日本に宗教其數多しと雖も其勢力の盛大なるは異宗なるか如し而して幾多の諸名僧弊縟を異宗に驅く而かも此異宗にして此の如し吾人は我宗教の將來を慮れば實に寒心に堪へざるものあり、本願寺の僧侶は爾東心宗祖に對して恥る所なきか由來本願寺か富貴に阿り百万の信徒が粒々辛苦の財を奪ふて宗教の眞意義を閑却せんとするが如きは吾人の默過すべからざる所なり

今回全國の末寺より參集せし僧侶を見よ彼等は遠忌の法會に美麗、華奢なる法衣を着けんが爲めに堂班を競爭して昇進熱に浮かされつゝあり是れ畢竟本山が宗祖の遠忌を利用して末寺の僧侶に虚榮の甘餌を起さしむべく募財の爲めに堂班の賞與を敢てせしに依る、而して堂班昇級に就ては各末寺の僧侶が如何に本山の幹部に媚び如何に苦慮せしかは察するに餘りあり、新報の報ずる所に依れば去る本月五日第二期法要の團參者より若干の金を携へて本山に提供し堂班昇格を求めたるも出金少額なりしを以て昇格するを得ず泣れ聞く所に依れば一昇段三百圓の定額なるに僧侶團信は七十圓を不足せしと彼て憤慨は煩悶禁せず遂に花屋町の旅宿に縊死したる奇怪の出來事あり、本願寺は其外聞を憚かり故らに是を闇黑外に葬り有耶無耶に葬り去りたる由なるも以て各末寺の僧侶が如何に其名譽を衒ふ煩悶に捕はれつゝあるかを知るに足らん是れ實に本願寺當局の僧侶が幹部に深く盤踞して佛法百年の大計異宗の盛衰を雲烟に附し只目前の名利に眩惑し其自ら而して末寺の淳朴なる僧侶を誘ふて堕落せしむべき施設を爲し以て其異宗々勢の發展に一頓座を與へんとしつゝあり左れば心ある地方末寺の僧侶は大に本山の秕政を憤慨し從來言語同斷の忿懣を抑へて忍ぶべからざるを忍び口を噤んで放て言はざりしも漸く茲に縦論横議するに至り今や各末寺に於ける革命の暗流は滔々として各地に漲へり是れ本願寺に取りては實に民心離散の時にして天下は春風駘蕩たるも本山と末寺の間に吹ける春風は却て殺殺として物寂しく悵然一抹の黑雲は關東、關西の二隅より起り來れり知らず大閘か暴風か而かも可憐なる本山の僧侶は御祭り騷ぎに忙殺せられ祭錢の勘定に疲れ果て、錢箱を枕に前後不覺に眠り居れり（四月二十日）

○人肥需要増加

農家の肥料智識の普及と昨年凶作に際し人造肥料を使用したるものは收穫比較的多量なりしが本年米麥生糸等價格騰貴したるを以て肥料の需要頓に増加し加ふるに魚肥豆粕の高値に益々農家をして比較的安價なる人造肥料の需要を進め各會社共多大の注文輻輳し製造に忙殺されつゝあるの盛況にして多年沈滯し人肥界も春風駘蕩の佳節に際會したるの感あり而して人造肥料價格協定案に協定成立したりと傳ふるものあり或は不得要領に終れりと稱するものあり其眞相頗る曖昧なるが或は價格協定すべき方面より聞く所に依れば百姓最も負の人肥製造者多く未だ肥料の未だ調節を表せざるを以て各社共不安の間に恐る恐る直上げ實行せるもの〻如し此人肥業者の歩調整はず新聞を重ね職弊を顯はすと共、或は名を専賣特許に假り肥料成分を含まざる石炭燒洋骸炭の類肥料物を混じて販賣するものあり爲に先月來各地に不正肥料の告發を受くるもの頻々として現はるゝ中にも堂々たる大會社にて常に會社の廣告に曰く（誰か東洋第一にあらずと云ふや資本の大なるに於ても信用ノ確實なるに於ても）などと大言を放ち乍ら最近二回も告發され（など其廣告文も更に的にならず正直なる農家を欺き私利を專らにする會社の營業振に於ては實に憎みても餘りありと云ふべし

複方 アンチヘブリン

感冒解熱 特効劑

四季のかぜ はやりかぜ ねつ痛一切 づつうの良薬

發賣元 京都市三条柳馬場角 川杉資善堂

藥價 二日分 金拾戔 五日分 金廿戔

代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房 振替口座京城十六番 電話〇六八番●九〇四

最上醬油

永登浦大塚醸造所

長崎流 ○しるこ ○茶碗むし ○むし寿し

出前も御注文に應じ可申候 南山町二丁目(南山公園上り口)

松ぞの (電話一一八五番)

朝鮮名産

鶴乃箸

○鶴の骨細工種々 ○鶴の羽細工種々 ○朝鮮土産品種々

製造發賣元 京城本町三丁目 電話二五〇 振替朝鮮四八 海市商會

特約發賣元 京城本町四丁目(電話九五六) 日之出商行

特約發賣元 京城本町六丁目(電話二一〇) 西崎本店

S.K.S

專賣局定價 一號金六圓 二號金五圓

土耳古巻紙巻煙 エスケーエス

朝鮮總代理店 仁川 オチ商會

特約販賣店京城注頭、木浦沖永商店、馬山浦西川商會其他各地有名賣店にあり

M.C.C.

專賣局の定價は百本に付金五圓貳拾錢なるも朝鮮内は大安賣

土耳古巻紙巻煙 エムシーシー

京城、平壌、龍山…釜山、木浦、群山 高瀬支店

上等清酒

醸造發賣元 仁川 吉金酒店 電話七六四番

貨物運送取扱 關税貨物取扱

危険擔保付運送品 代金附貨物運送 貨物引換證發行

内國通運株式會社

京城南大門驛前 京城支店 電話一七〇八番 一七九番

仁川驛前 仁川出張所 電話五一二番

草梁驛前 釜山出張所 釜山驛前電話六二六番 草梁驛前電話五三七番

龍山驛構内 龍山出張所 電話二〇六番

弊館には夜警の設備有り

陸軍指定旅館 鐵道院指定旅館 水産組合指定旅館 保險會社指定旅館

御客様の安全此の上なし

仁川港 旭屋旅館 電話二五一

義歯術全般

京城旭町一丁目 齋藤英壽 電話一四一四番

光鳳

醸造元 仁川宮町三丁目 深見勝三郎 電話二四八番 電信略號フ

英國セフヒールド市 シーボムアンドデイキスタル製鋼會社特約品

鑛山用 地球鷲印八角鋼

道具用 同 角磨鋼

職工用 同 鑢各種

右は朝鮮一手販賣罷在候處滿鮮地石材穿鑿具製作用として最も適當の爲め至極好評を博し價格亦内地輸入品より格外廉價に御座候間何卒一度御試用奉希上候

京城本町五丁目 和洋金物商 釘本藤次郎本店 (電話四五番)電信略號「ク」 振替貯金口座京城二五六番

▲諸紙諸帳簿 ▲柳行李雨傘 ▲襖紙文具類 ▲名刺臺紙

右精々勉强可仕候間多少に不拘續々御用仰付被下度伏而奉願上候

●追て市内は電話にて御用命被下候へば早速持參可仕候

●地方は御注文次第迅速に御送付申上候

仁川新町三丁目 野田紙店 電話四〇四番 電略(ノ)又ハ(ノタ) 振替口座(京城三六二番)

朝鮮牛種及牛乳改良元祖

消毒純良 高等牛乳

京城南大門外 荒井牧場 (電話一〇五六番)

龍山本町三丁目 龍山販賣所 (電話二〇二番)

新荷着

浪平板 洋釘各種

多數御入用の御方は特に安價に御相談致可候

京城本町貳丁目 和洋金物商 佐野彦藏商店 振替口座京城二二〇番

酒精アルコール

●新荷着 仁川花町一丁目(電話六五〇番)(電略サ) 坂倉支店

來れり 寫眞撮影の時季

幻燈器械 寫眞器械 藥品材料一切 旅行用娯樂用營業用

直輸入 京城本町四丁目 織居寫眞機部 電話二六三番 振替貯金二一三番

鍼灸治療

脚氣、リウマチス、腸胃加答兒、腦病 神經痛 小兒寝小便 其他諸病一切

御報次第參上治療可仕候

京城曙町(取次電話一八七) 石川源太郎

日韓瓦斯電氣株式會社 瓦斯コークス特約發賣 (がらの上等なり)

三菱石炭專賣店 明治町二丁目 村山商店 電話千五十一番

東京 足袋

本店東京 京城大和町一丁目(日の出橋際) 大和屋 藤井出張店 電話二百〇五番

正札付大安賣 厘毛引なし安心して買へ升

入院隨意

京城壽町三丁目 電話三七八番 中島醫院 院長 醫學得業士 中島貞信

薄口醤油

特約販賣 仁川 高雄 京城支店

純良消毒牛乳

京城東四軒町 岡野牧場 電話千六十九番

仁川山根町 韓國銀行舎宅下 養鷄場

●白毛冠黒色ポーランド ●ノーモルガン系黒ミノルカ ●スミス系横斑プリモースロック ●クツク系黒色オーピントン ●フエリッチ系黄色ワイヤンドット ●新輸入ウーダン

右種禽種卵御希望の方には分讓す

美江 公州 間 定期出帆廣告

美江發毎日後一時四十分公州着後六時 公州發毎日前七時美江着後四時

船内御客様の娯樂用として新聞雜誌碁將棋盤等の備付あり

京釜美江驛前 中條運送美江支店

五月中 滊船出帆廣告

海州行 天草丸 十九日、廿三日、廿六日 安來丸 十三日、十七日、廿一日、廿五日、廿九日

濟物浦 鎮南浦 三省丸 十九日、廿一日、廿四日、廿六日

成歡丸 廿四日

千葉丸

合資會社 秋田商會船舶部 仁川本町四丁目 電話一七三番 七五〇番

…に於て海外輸出貨物の…税關事務…通に非常の利便を見るなりと…の取扱をなす事と…七月一日より愈々

●清酒火入の成績 從來清酒の火入…場にては今般燒酒用の蒸溜器を用ひて六十度の熱度を與へ清酒の火入をなしたるに一石當り九合九勺となり成績良…

多情多恨

京城藝妓の半生 (十一)

井門本店 奴

『我のみや世を鶯となきわびん人の心の花と散りなば』顧まれぬもの唯り人の心のみならず人の世の榮枯盛衰も又計り知られぬものである、奴、本名を山田ひでと云ひ當年二十六歳生れは大阪西區堀上通りで奴のれひでが二十一の春迄は町内でも屈指の商家であつたのが不圖した商業の蹉跌から遂に破産したので幸か不幸か圖らずも遊び事に好な奴へた藝を力に藝妓稼業を思ひ立つた、併し何程何んでも生れ故郷の大阪では耻かしいと云ふので鳴門を越しての向ふ岸金刀比羅權現で有名な讃岐は琴平の湊崎券番から小床と名乘つて左褄取る身とは墮つたが左して大家と云ふではないが相當の家に生れてツイ昨日迄嬢やん〳〵と呼ばれて荒い風にも當らなかつた身で浮川竹の憂き勤め云ふに云ばれぬ辛さ苦しさ、斯うした自身の生れ作前世の業か何事も親の爲め家の爲めと思ひ諦めては居るもの〳〵ホロリと行つては一座の朋輩衆やれ客に揄揶れた事も二遍や三遍ではなかつたが其の境遇に同情して小床か床と贔負の客も多かつた內にも同地の豪商小泉吉次郎と云ふ人の肩入れは非常なものであつたが好事魔多し抱主の方の都合から僅かに半歳程で因州因幡の鳥取市の丹吉と云ふ券番へ鞍替へさせられて小次郎と名乘つて出た僅か半歳の修業ではあるがモウ其の頃の小次郎は以前の小床ではなかつた花柳界の駈け引き色の諸分けも嚙み分た一人前の藝妓である歩兵中尉の今村信太郎君と工兵大尉の吉本源吉君とを兩手に繰つて居た或る日の事時刻も場所も同一店から口が掛つた客は掛けは一方が今村さんに一方が吉本さんだと云ふ一時は何うしたものかと思案に餘つたが其家の女中に搦ませて吉本の方は△坐敷へ出て居るからとて一時間斗り待たせて置いて早速駈け付けた今村君の坐敷『唐突なので困つたワ……ハア坐敷だつたのよ脱けられないけど貴郎だと云ふもんですから脱い所を設けて來たのよ、夫れに今日はモー一つ宴會を勤めなければならないんだから厭になるワ……妾しや何うしたんでしよう貴郎の顏を見ると只別れるのが厭になるの、エ何んですつて憎らしい』てな事で茶を濁して今村を逃り出して置いて引き反した吉本の坐敷へパタ〳〵と駈け込んで『待つたでしよう』と只一言云つた限りハアハア息を喘ませて杯洗の水をゴックリ』貴郎はホントに罪作りよ、妾しや何うしようモウホントに……女中さん助太刀して頂戴よ今日こそ思入れ此の人を虐めるんだからね』と怪腕を揮つたことが惡事千里を走るの比喩で兩君の耳に入つたのが身の破滅で遂にう〳〵其所にも居られなくなつて米の實る木を知ぬと云ふ岡山縣は岡山の花畑の中券へ再度の鞍替仮藝名も吉と改めて(つゞく)

悲慘なる一家族

▽四人悉く病臥す 去る十二日仁川警察署詰樋口巡査が市中衛生視察として巡回中端なくも一家四人悉く病床に呻吟し枕を列べて空しく死を待つのみなる一家族を發見したるより打ち棄て置く可きに非ずとして事情を聞き取りたる上本署に報告したる所に依れば仁川新町二丁目五の十河野昇(三七)と云ふは妻ふで(三二)長女ちよ(五)龍三(三)の四人暮しにて去る四十年仁川に來り饅頭の製造をなし可成の生計を立て居たるが越て四十二年九月妻ふで產後の經過不良にて常にブラ〳〵として醫藥に親む身となりしより經費の嵩むに從ひ益々家計は不如意となり店の道具まで賣入するに至り商賣休止の有樣に陷りしより昇は止なく不馴の土工職となり終日働き尚夜間は新聞の配達をなし得たる勞銀を以て妻子を介抱し居たる事約一ヶ年に渉り附近の者誰彼となく昇の辛棒強く且妻子を勞る心掛を賞讃せざる者なきに至りしが不幸は負も去らずして去三月頃より子供二人は麻疹の經過不良にて母子三人枕を並べ病床に臥し居たるが昇は更に失職の体なく益々勇み立ち日夜勞働を繼續しつゝありしに去十日矢張仕事に從事中打倒れしより同職の者に助けられ醫士の診療を受し處脚氣病なりとの事にて玆に於て一家四人全く進退の自由を失し食ふに粟なく親子相抱いて其の薄命に泣き居れるなりとぞ

一女振り (十)

海津三雄君夫人 海津錦子

三雄君は人も知る後備陸軍工兵中佐で現在は京城民團民會議長で溫厚篤實な長者である、錦子さんは當年四十七であらるゝ、十六歳でもつて海津家に嫁がれたのだ相である而して嫁がれた五日目の事とか海津君は此の可愛しの花嫁御寮を裏庭に引つ張り出して積み重ねてある薪を指して此れを御割りなさいと命令した嬢さん育ちの錦子さん與へられた斧を握つて節瘤の臨つた薪をヒオクリ回して居たが扨何うして割つて良いものか判らない、三雄君は默つて見て居る、錦子さんの墨の如な眼からはポロ〳〵と淚が滾れた、一家の主婦でなるべき者が薪の割方も知らんではならん、斯うして割るものだと一事が萬事、總てが此の調子の主三雄君が手を執つて敎へた相だ。れた以て其の人と爲りを知るべしである、三雄君が太平生命保險の京城代理店とかを引受けて居られるので錦子さんは保險勸誘に從事して居られる、辭令に巧みながら成績は良好である、又英語に堪能である相だ、れ子供衆の內た二人丈けれ宅に御座るが孰れも嫁さんである、夫人の產地は靜岡と承知する。

●レール泥棒處刑 岩手縣八當時龍山大島町三十八番戶菊池五郎七(四五)は四十三年五月より土木請負業仁川早川組出張所々屬龍山大島町所在倉庫番人に雇はれ貯藏品看守中輕便レール十五尺のもの四百六十四本外數點を横領し之を入質或は賣却し長崎縣人當時龍山旭町通り二十六番戶古物商阪本長藏(三九)は菊池の横領したる情を知りつゝ或る一部分の物品を故買したる事其筋の探知する所となり京城地方裁判所に於て菊池は懲役一ヶ年に阪本は贓物故買犯として懲役三月罰金百圓に處せらる

●未練男の無分別 愛媛縣新居郡飯岡村三百八十九番地當時南大門通り二丁目十九番戶鍛冶藤田熊五郎が內縁の妻末廣まさと家計困難の爲め離縁後まさは古市町遊郭屋中本嘉助方へ下女として住込み居たるに未練穢く再び同棲を求めしに應せざるより種々運動に手を盡す內まさは主人中本と私通し居る旨聞知し嫉妬の情禁じ難く怨恨を晴さんと中本を殺害せん目的にて短刀を携へ中本に重傷を負せたる事件は當時既報の如くなるが該事件は京城地方裁判所に於て殺人未遂として懲役三年に處せらる

●三百圓で六ケ月 大阪西區幸町二丁目十三番戶當時本町一丁目寒暑り十一番戶龜井鐵之助(二四)は四十三年十月より本町一丁目雜貨商三巴に雇れ中三百餘圓に相當する賣掛代金其他物品を横領費消し京城地方裁判所に於て懲役六ヶ月に處せらる

●彈丸を蹴飛ばす 龍山元町三丁目居住清水清一(三〇)旭町一丁目三百八番戶福田嘉一(三三)の二名は十七日正後十二時頃南大門通り二丁目に於て擒軍を相手に喧嘩を吹き掛け彈丸を蹴飛し一時人事不省に陷入らしめたるより南部署に引致目下取調中

●演藝だより

●壽座● 同座は壽劇會我之家太郎會一座にて十九日の藝題は一番目兄弟の財產二場、二番目憶病武士一場、三番目短慮の刄四場、四番目淀の決鬪三場にして重なる配役は喜三郎、憶病衞門坊主(辨慶)誰具賈艶子、紳士中島(千鳥)光喜助、誰具賈三太、箕浦龍外(千歲)左官甚太郎與方荻の方、文士節田(蝶太)

●歌舞伎座● 竹本水朝一座娘義太夫十九日の語り物は 御殿(朝駒)忠臣藏六勸平切腹(水光)鎌倉三代記八ツ目 千代の助)本藏下屋敷(若千代)阿波鳴門(千浪)日吉丸三(玉龍)三勝半七酒屋の段(水朝)大切身振千兩幟櫓太鼓曲彈三味線咲之助小咲二

●浪花館● 娘義太夫小知榮一座十九日の語り物は 御祝儀賣の入船(入登)一の谷二段目(小勢伊)千代萩御殿(小富)忠臣藏二度の諸書(小吉)鏡山又助住家(小三)太功記十段目(小萬)御所櫻三段目(小鶴)箱根零驛勸(小知榮) 大切れ駒才三白木屋の段掛合

●取消● 拜啓貴紙六百七十九號京城藝妓の半生十消事亭今奴の記事中小生名義記載有之甚だ迷惑不尠候小生は藝妓に關係したる事無之殊に今奴とやらは如何なる顏付の藝妓なるやも聊か存じ不申候間万一小生と同姓同名の方あれば住所職業を記し明白に御訂正相成

柳のさゝやき

▲今朝裏の畑に茄子が南瓜の喧嘩が御座つたが南瓜ナカ〳〵の喧嘩者と思はれず一寸は仲裁して何時喋つべーとも思つて見たがツイ面倒になつたので勝手に爲ろチウて飛び出し井門本店の裏のチシヤの木に棒つて人間のすゝ噂に耳を傾け申候▲隣家の妻子が申すは誠に置に國心ガ者に候學者の取り持ちと朋輩との折合ひ一點の批の打ち所も御坐なく意は君樣に熱心にて樓中にて誰れ一人感心せぬものなら樣子に候▲次に敵娼は藏け見に角席敷は離かに巧手に候、エ、其の方は何卒商接にれ間合せを願上候▲次はポイヤ柳翠の石燈籠の上へ棒つてパパを一ながら聞き耳を押し立て申し候▲誰勢は手げれど女郎優なりしどカ丈けが錦が相當に出來るとかに候相當とは何に相當なるか知然致さず候▲次は清樂亭の庭に飛び込み申候鶴の音は馬鹿に長いものと感心致し候▲隣家の玉吉一寸見ると赤兒の如か顏をして居るが何うして〳〵頭か老に候現に本月六日の午前から龍山觀町の土木請負業者金田某の息子を龍山桃山の頂上なる待合桃園樓に咬へ込み勿十四日間の居續けに樓下の滿鼠を驚かした揚句に仲居を捉へて曰く姐さんれ太陽樣は能く見ると黄いものよと申居候▲同亭の丸子も胸途有望に候▲次に菊屋の茂松は明治町の○村支店の旦那の尻押しとあつて藝妓置家開業の準備中に候▲同家の養代次は不見轉なんかは眞平よどの大氣燄に菊厚式を發揮致し居候▲御大文之助は先き頃より筑前琵琶の研究中なりしが近來非常の上達に御座候▲次は改進亭に御座候同家の小廣相變らずの口八丁手八丁の達者にて全盛に御座候▲次は元翔翠のヤン茶目下清水席より自前にて稼ぎ居り候が此の妓翔翠を出る時は國へ歸るとの觸れ込みなりしより朋輩の誰れ彼れ泣きの淚で南大門に見送りたるに當人一向悲しからざりしも道理永登浦より逆戻つて今の始末斯くと知つた見送り連中地團駄踏んで口惜しがつて居り申候ヤン茶曰く夫れも此れも皆んなホテルの若旦那の爲めなんですから惡く思つちや厭だワ、とは扨も〳〵(郭雀)

今度左なくば其全文御掲載の上御取消…方ら度候也 明治四十四年五月十七日 京城本町三丁目十二番戶和洋雜貨商池田 兵衛印 京城新報社御中

大阪株式(六月限)(前場)三三二、三〇 三三二、一〇 (後場)三三二、〇〇 三三二、〇〇
神戸電鐵 引
大阪瓦斯 東京株式 …

▲大阪期米 ●十八日前場五月限十六圓九十三錢▲六月限十七圓十二錢▲…
▲仁川米豆取引 ●十八日前場五六月出來不申▲七月限十一圓四十錢▲最高十一圓四十一錢▲最低…